津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表３１１１）
印刷所　旭印刷
電話（水俣）③4101番

国道改修前の旧役場

役場の歴史

役場が場所を変え、今までより桁外れの大きさでお目見えしたことは、町の発展の象徴としてお目出度いことである。そこでわが町役場の歴史について述べて見たい。

手永

肥後藩では初め藩を百ばかりの手永に分けたが、中期には五十ばかりに統合された。手永とは「村」や町と思えばよい。

津奈木手永は四つの村と五十三の小村とからなっていた。

●津奈木村には、中尾　日野　乱橋　蔵谷　中村　上原　松岡　山口　桜戸　浜　泊　角　長原　高無礼　一町田　一本木　古中尾田下　外屋敷　山中　三枝　大手町　日高野　堤上　小川内　野角　染竹　深溝　川端　椿　竹中芋洗川　浜崎

●上門村には、野中　川内　松木原　仮屋　有木　野平　下門　石原　流合。

●小津奈木村には、町原　赤松中園　石木田　尾上

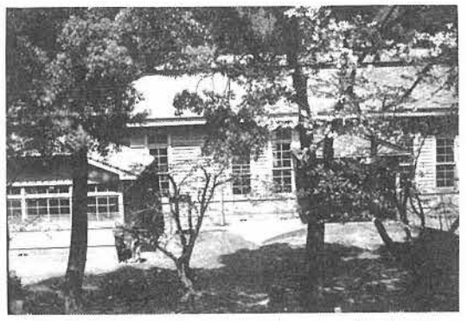
●平国赤崎村には、赤崎　福浦（備考）例え三軒でも村、手紙を書くとすれば「肥後国芦北郡津奈木手永上門村川内」という。

総庄屋

手永の長を「総庄屋」といい役所が「会所」で、今の中学校の玄関前あたりにあった。

総庄屋は代々津奈木氏（斉藤治氏の先祖）が寛永十年から天明二年まで百五十年間あたった。

その後で徳富氏（太多七、茂十郎、太善治）五十余年間総庄屋であった。（蘇峰先生の先祖）重盤岩眼鏡橋架橋の嘉永二年ころは、衛藤三郎右衛門氏が総庄屋であった。



里正

津奈木を二つに分ち、長を里正といった。赤崎　平国　福浦　浜泊　泊の里正は千々岩常人氏であり、他の岩城、津奈木　千代小津奈木　初野　大迫の里正は大西半哉といった。

註　初野　大迫が入っている。

明治六年から県を大区、小区に分け、番号で呼ぶことになった。例えば、明治七年二月の公文書を見ると、

第四十五大区二小区上門村三百七十一番屋敷農某と書いてある。

明治八年六月の公文書には、第十三大区九小区福浜村と変っている。

明治八年には、里正を戸長と改称した。戸長は町長であり。

戸長になった人

今田清九郎　明治八年より
久野寛基　明治十二年より
徳富昌龍　明治十二年三月より
伊藤弘綱　明治十三年三月より
竹田一孝　明治十七年八月より

（町村制実施で村長に当選）

役場の建築

明治四年まで中村の会所で事務を執った

明治八年に旧役場が新築された。

筆者の家は役場の近くであったから、八年に建った役場の姿をよく思い浮かべることが出来る。

大正十四年～十五年に旧役場の改築が成る。その後手入れはあったが、本体は変らず。（岡松）

一言

戦時中「ガソリン一滴、血の一滴」と言う標語があり。これはガソリンに限らず凡ての物資の節約を意味したものである。

当時主食の米は一人当り何合、綿製品は家族に応じ何点と言うように規制されていた。

戦後婦人会は各種団体に呼びかけて、生活改善の一歩として公民館での結婚式を提唱され、当時相当あったが、最近それも殆んどなくなりつつあり。先般婦人会の手で再開され、両家と話し合いのうえ引出物は全廃されたが、両家では、それでは余りにも淋しいと言う事で菓子を添えられたと言う。

切角の簡素化もこれでは元に戻るのではないかと思われる。

また葬儀においては数年前、花輪は近親者の二、三対に限る事に決定したと或る地区が提唱し、ほかの団体にも呼びかけると同時に公民館報にまで掲載された。しかしその地区の有力者の葬儀には数え切れないほどの多数の花輪が並べられた。切角の提唱も地元から崩れることになり残念なことである。

このようなことは富裕な家庭が卒先し実行されなければ、いくら鐘を叩いても改善されるものではない。

要は町民全員がその気になり、従来の慣習を打破し、少しづつでも改善に努力しなければ意味がないのではないでしょうか。（T）

〃酸素を吸って若返ろう〃

去る4月24日、海洋センターにおいて、城南地区では初めてのスポーツ教室「エアロビクス（有酸素運動）体操教室」の開講式が受講生43名参加して開催された。

開講式では、来賓の六車町長が医者の立場から「運動生理学」をわかりやすく話された後、教室を通して〃健康に輝く美を保つ〃人になって下さいと、研修テーマを与えられ、受講生を励まされた。

開講式終了後、講師の前田浩代先生（津奈木中教諭）の指導のもとに研修室で早速実技が開始され始めての体操教室に皆、興味津々笑いの中に第一日目が終了した。

BG海洋センターでは初めての試みでもあり、果して何人参加するか心配されたが、どうして〳〵女性の関心度は高く、19才から50才まで43名の申し込みがあった。

現在は改善センターに会場を移し、受講生の強い希望で予定を延ばし去る5月29日、閉講式が開かれた。受講生は今後、同好会的にクラブ作りをして、定期的に練習活動を続けていかれるそうだ。

（詳しくは海洋センターへ）

エアロビクスとは！

体力の素は〃全身持久力に有り〃それは個人の酸素摂取能力の大きさに左右される。しかし現代人はとかく運動不足（酸素が不足気味）そこで考えだされたのが、新しい健康法・エアロビクス＝適当な運動によって酸素を体内にとりいれ若返ろうという運動方法。

米国空軍が正式採用、効果は高く評価され、全土で流行している。

B&G「児童の船・少年の船」募集中

体験航海で沖縄・グアム・サイパンへ

児童の船
●研修先　沖縄
●実施期間　8月15日～19日　夏休み（4泊5日）
●参加費　五万五千円
●参加対象　小学生

少年の船
●渡航先　グアム・サイパン
●実施期間　7月22日～30日　夏休み（8泊9日）
●参加費　七万五千円
●参加対象　中学生及び高校生

募集人員に制限がありますので、早目にお申込み下さい。

詳細は役場海洋センターまでお問合せ下さい。

楽しかった親子

ソフトボール・ビーチボールバレー大会

去る三日、さつき晴れの好天に恵まれ昭和五十九年度〃親子ソフトボール大会〃が総合グラウンドで〃親子ビーチボールバレー大会〃がB&G体育館でそれぞれ開催された。午前八時三十分総合グラウンドで開会式が行われ、本山PTA連絡協議会長が開会を宣言、次いで六車町長が「今日も一日親子で楽しくお過ごし下さい」と激励のあいさつがありその後、選手を代表して大泊チームの増田真喜さん、剛君親子が「親と子のふれあいを深め、一日楽しくプレイします」と元気よく選手宣誓を行った。

午前九時から競技が開始され約千名の参加者で終始熱戦が展開された。

ソフトボール大会は昨年度優勝の日当チームと本年度優勝候補の大泊チームが早くも二回戦で対戦、大泊チームが準決勝に勝ち進んだ。準決勝では平国下との対戦となったが、おしくも逆点さよなら負けという大波乱がおきた。いよいよ優勝戦、相手は順当に勝ち進んだ強豪の浜崎チームと平国下チーム、熱戦のすえ平国下チームが優勝の栄冠に輝いた。

なお結果は次のとおりです。

〈親子ソフトボール〉
●優勝　（平国下チーム）
●二位　（浜崎チーム）
●三位　（大泊・竹中チーム）

〈親子ビーチボール〉
●優勝　（桜戸チーム）
●二位　（平国下チーム）
●三位　（町中・上下門チーム）

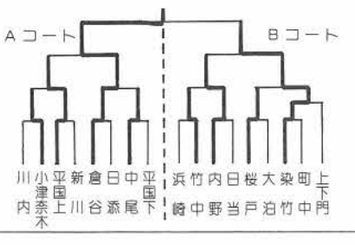
以上の成績でした。

町民体育祭（59年度）が決まりました

	種目	期日	会場
1	男子ソフトボール	5月20日(日) 雨天時27日(日)	総合グラウンド
2	女子バレーボール	〃	B&G体育館
3	ゲートボール	6月10日(日)	総合グラウンド
4	水泳	7月24日(火)夜	B&Gプール
5	野球	8月13・14日 （月・火）	総合グラウンド
6	競舟	8月15日(水)	大泊港
7	卓球	9月26～28日 （水・木・金）	B&G体育館
8	陸上	10月7日(日) 雨天時10日(水)	総合グラウンド

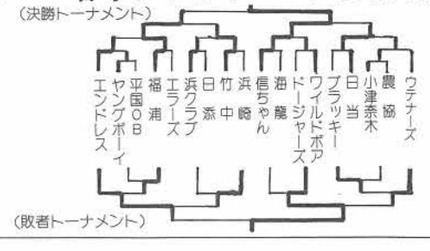
4月のスポーツ大会結果

第1回男女混合バレーボール大会（25～27）



春季ソフトボール大会（16～23）

（決勝トーナメント）



（敗者トーナメント）

婦人学級のこと

旧添　尾花 ミズノ

今年で四年目を迎え、ふり返って見ますと、年間に限られた回数で、短い時間内に色々な勉強をしてまいりました。昨年度、生花一回、手芸一回、運動と、あれもこれもと取入れて、身につく迄には至りませんでした。

その中で少しでも心に残った事と言えば、沢山の先生方にお聞きしたお話ではないかと思います。

全部のお話をおぼえる事は出来ませんが、此の先生からはこんな一言がと思い出す事が必ずあるはずです。その一言や、一度耳にした事が人生の社会生活の一助となり思いやりのある生活となっていく事になるのではないでしょうか。子供のしつけ、おやつの事、家族関係と、ふと頭の中をよぎる事があると思います。こんな事はどの先生に、いつ何処で聞いたかとは思い出せなくても、それで良いのではないのでしょうか。

これ迄に出席された方々は、社会や、子供達に取り残されないようにと、一生懸命に学んで下さいました。これからは、一回でも二回でも出席出来る時に沢山の方に参加してほしいと思います。

出合い。話し合い。聞き。何かをする事によって、心に広がりを持てるのではないでしょうか。人生は死ぬ迄勉強と言われた人がありますが、そんなに固くるしく考えないで、皆さんと仲良く楽しくやって行けたらと思います。

図書館が移転しました

役場が移転して、農林水産課、建設課の跡を利用、津奈木町商工会事務所と図書館を設けました。図書棚のそばで読書ができるように広くとってあります。

図書の貸出しについては、商工会事務所の方がお世話します。

新川にオオハクチョウ

新川にオオハクチョウが浮いているのに気ずいたのは、五月八日の朝ではなかったろうか、そしてすぐ、高本紫溟の新川の詩を思いだした。

疏鑿功新就　疏鑿(そさく)功新就
桃花水穏流　桃花水穏流
不須沈白鳥　不須沈白鳥
唯見浮軽鷗　唯見浮軽鷗

（大意）新川の工事が成功して、桃の花びらが静かに流れている。恐らく水の怒りもおさまって、川には鷗(かもめ)が浮いているのを見るだけ。

寛政八年（一七九六）辰の年六月の大洪水があり、町も中村も浜も一面の湖となって、人畜、家屋や農作物に莫大な被害を与えた。

そこで再びこの洪水を起こさないため、元の川を塞ぎ、新たに川を掘った。元の川を古川、新しい川を新川というようになった。川の完成の祝いに前記の詩を、時の総庄屋徳富太多七に贈った。（備考）

高本紫溟（一七三八～一八一三）時習館の教授、漢学はもちろん国学にも通じた。

時習館　細川重賢（細川八代の藩主）が文武の講習所として開いた、藩の学校。

新川に潮がきて、ハクチョクが泳いでいるのを見たとき、

「つわぶき」有りがとうございました

つわぶきの利用法について、お知恵を拝借しましたところ、いろいろとお教えいただき、まことに有難うございました。

栽培

○畑の周囲に植える。
○蜜柑畑に植える。広い面積に植えて、肥料をやって収益をあげておられる人もある
○栽培しなくとも、野山にとりに行けばいくらでもある

食用

○皮をはいで煮て食うのは普通どこでもやっている。但し皮のはぎ方には、手を黒くしない方法

なごやかな気がしただろう、と思う。ところが残念なことに、五月十八日朝にはいないことに気がついて、さびしくなった。（岡松壮記）

簡単にはぐ方法が研究されているようだ。

○味噌漬　皮をはいで漬ける。そのまま漬ける方法がある。

山に仕事に行き、初夏の陽を浴びて、からいもを片手に、片手にうす紫のつわの味噌漬を食うたのしさを思い出す。ちなみに蘇峰先生はつわの味噌漬の味は忘れられないといっておられた。

○佃煮
○干しつわ　糸のように細くなったものを、水にもどすと元の大きさになるのを食うのは太陽が加わっているので、栄養学的にもよいそうだ。

薬用

○葉を火にあぶって柔かくし、冷たくなったものを患部に貼る。はれもの、火傷、湿疹、肩のこり、乳の腫れ、打ち身、内出血によい。
○虫にさされたりした時も前のようにして貼る。
○痔核には葉を煎じてその汁で洗う。
○魚の中毒には葉を煎じて飲むとよい。
○耳鼻咽喉の病気には葉のしぼり汁を飲めばよい。続けて飲む。

有難うございました。

今後も公民館報に御協力下さるようお願い申し上げます。岡松

町誌こぼれ話

斉藤 治

郷土誌編纂上のこぼればなし(二)

古文を始め各種各様の参考書類を多く読解し、専門書に広く深く目を通しても無限に拡がる学説や論説をどこまで調べ、どこまで史実に関連ある書籍を繙けば一般基準にかのう郷土誌として仕上げられるのか、深みに入れば入る程専門的意欲が芽生え、郷土誌編纂という簡単な言葉ではあるが、後世に永く残る精神的遺産としての価値観から、責任の重大さを痛感するものであります。

次にこうした例もあります。

古文書を解読せずして郷土誌編纂ができないことは万人周知の通りですが、この古文の中には難解は当然で普通の辞典には全々表示されてない古字や略字がよく出ています。

例えば、八木(米)正文(政)敎す(殺す)ムる(御座る)山山(嵯峨)見わる(現わる)帋(紙)峯(時)窗(窓)竿(算)忘れる(忘れる)弍(壱)弐(弐)弍(参)のようによく見うけます。

一人の委員から八木を上納したとあるが、何んと読むか全然辞典にないのでと、委員全員に持ち出されると、「これは米と読むのだ」と結論でき、又或る日、「どこかの横目が藩主から緑以外に褒美として、数苞頂戴したとあるが」これは苞（ツト）で萱の根の先を紐で結び合わせ、往年は新聞紙も紙箱もない時代で、茸、山芋、魚等を風呂敷の代りに贈り物等の代用として一般的に使っていたものだが「この場合何んと読んだらよいか」と全員に正確な読み方を求められると、「これは苞（ツト）のことである」と解釈できるものです。

つづく

女子青年団員紹介

農添　ひとみさん(中尾)

詩

春は料理上手

辺り一面の田んぼに
一つの料理を見つけました
レンゲの花のピンク
菜の花の黄色
いろんな草の緑色
ピンクは　でんぶ
黄色は　いり卵
緑色は　サヤインゲン
そう　三色ご飯のできあがり
春の　のどかな田舎町に見つけた
とっておきの料理
春は　私達に夢を与えてくれる
そして　田舎の　自然の素晴らしさを教えてくれる
春は　立派な　コック長さん…ネって来ます。

＊作者の人柄が生き生きと伝わ

（青年団広報部）

エビネラン展示会は盛況でした

春の香りと、自然の美しさを届ける「エビネラン展示会」が、去る四月二十一日（土曜日）と二十二日（日曜日）に町文化協会主催「エビネラン愛好会」の主管によって、津奈木町公民館で開催されました。今年は春の訪れが遅く、開花期も十日づれたので、出品数が心配されましたが、三十七人が積えておりら、適当に株分けをして植え替えて置きましょう。入賞者次のとおり。

最優秀賞　伊藤　一吉
優秀賞　正利　山口　敦　福本　留人　山下　繁樹　山本　茂　寺岡　栄助　山路　重郎　中村　段重　福田　辰義　鶴野　一郎　瀬崎　シズ　村上　忠雄　坂口　実　山川　清　篠原　純一　坂本　有徳　久村　末喜　楠本　忠喜　山内　国義

二百六十七鉢を展示しました。会場には、町民の人に混じって、三号線を交通する「ドライバー」の人も立ち寄られて、二日間とも大いに賑いました。

入賞者は、最優秀賞に積正利氏（黄エビネ）外八氏、又、優秀賞には、村上忠雄氏（地エビネ）外十氏でした。

皆様の御家庭でも、花の終った「エビネラン」は、花柄を引き抜いて少量の有機質（油粕等）肥料を施し、大株になっていたら、適当に株分けをして植え替えて置きましょう。入賞者次のとおり。

俳句

吹く風もいつしかぬくみ草萌えて
籠の小鳥も高らかに鳴く
百まではともに生きんと誓いたる
友勿然と八十五で逝く　鳥居　保
遙かなる大陸の黄砂海越えて空を
おおいぬ春遠からじ
音もなく夜更に積みし如月の雪は
はかなく消ゆる薄日に　片桐　真代
妹の手術の報を受けてよりひねもす一人経をあげおり
先祖より家に伝わる巻軸の漢詩いみじく心うたるる　白浜美知子
見渡せば田畑も山も銀世界時ならぬ春の雪におどろく
それぞれの思いを秘めて生くるらん余生安かれ老人ホーム　柳迫いつも
とりどりの色も明るき鯉の群ながめ楽しむ朝のひととき
うぐいすの声ほのぼのと聞く朝とみに春めく彼岸に入りて　福田ヤエ子
冬ごもり長かりしかば山桜今年はよしのも同じ日に見き
風に鳴る矢羽根や並ぶ鯉のぼりここにも男の子ありとたのしも　小嶋　正弘

短歌

小嶋　正弘選

肥後狂句

堀　双岳選

着　順
なんもかんも　一諸になっちゃこまるたい
丁度よか　早速見合いさせつ見ゆう
雲波
なんもかんも　思いどおりになったばい
丁度よか　人の言うこつ聞かん罰
白波
なんもかんも　冷蔵庫まで空っぽす
丁度よか　豚小屋掃除手伝わしゆ
双岳

次の笠

高血圧　おだてあげ　一笠二句宛

六月二十日限　公民館報編集部へ

選後註釈

〝〇〇ば〟のばは何故か昔から肥後狂句には使われないようです。を、又はもを代用するようです。

昭和五十九年度 役員紹介

津奈木老友会

会長　緒方孝行
副会長　福島円太
副会長　岡松カキ
監事　福島末喜
監事
地区名　会長名
竹中　日野忠延
染竹　鶴野已登志
浜崎　福島末喜
桜戸　浦口初義
町中　田村正
浜　川添新次郎
大泊　新立次義

PTA

津奈木中学校

中尾　緒方孝行
古中尾　永田辰雄
倉谷　益田八百喜
内野　山路茂
上下門　津々木安行
川内　西平貞義
福浦　福山末義
平国　長浜一郎
日当　伊藤嘉次郎
日添　篠原常義
小津奈木　小嶋正弘

わたしたちの先生

津奈木幼稚園

写真右から
山下泉先生　うめ組
吉野君代先生　もも組
日野敏子先生　さくら組
財部留夫先生　園長
伊藤多美子先生　事務

津奈木町連合青年団

団長　馬乗園健一
副団長　大園和史
広報部長　新立豊
〃副部長　塚本由香
体育部長　丸山久雄
〃副部長　山下まゆみ
文化部長　長浜勝二
〃副部長　丸田真奈美
女子部長　農添ひとみ
〃副部長　松上真理子

婦人会

津奈木校区婦人会

会長　宮崎哲
副会長　竹本勝子
副会長　千々岩順子
会計　白坂寿子
書記　林雅子
生協　沢井みすえ
生協　増田真喜
体育評議員　平松昭子
委員　坂本洋子
委員　松田ハツエ
委員　西川京子
委員　松永怜子
委員　川上道子
地区　支部長　副支部長
上下門　平松道代
内野　吉沢実
川内　西平絹代
倉谷　楠本せい子　楠本スミエ
染竹　宮嶋くに子　溝口英子
浜崎　小坂美津子
桜戸　前坂スミエ　浦口美代子
町中　元村文子　元村より子
新川　川崎清水　川添フユ子
古川　西川ムキ子
大泊　桜庭みすえ　森本ケイ子
小津奈木　篠原智子

津奈木小学校

会長　千々岩勝次郎
副会長　竹本洋子
副会長　篠原政利
副会長　上原敏秋
副会長　森本征照

津奈木幼稚園

会長　寺川信昭
副会長　松崎豊
副会長　野崎祐子

赤崎小学校

会長　岩崎博文
副会長　上村義治
副会長　篠原尚子

平国小学校

会長　福田祐二
副会長　長浜常雄
副会長

赤崎校区婦人会

会長　尾花ミヅノ
副会長　篠原はま子
会計　開田ヒサノ
日当支部長　伊藤実子
日添上〃　吉野ケイ子
日添下〃　藤原秀代
塩屋　〃　篠原はま子

平国校区婦人会

会長　野崎節子
副会長　野崎昭子
会計　野崎久子
書記　吉野ミエ子
生協係　村上国子
体育部　上村サミ子

社会教育委員会及び公民館運営審議会委員

中元　敏行　宮崎勇
山田　公道　徳永敬二
財部　留夫　緒方孝行
岡松　壮　寺本一喜
福田　信順　鶴野申洋
宮崎　哲　尾花ミヅノ
野崎　節子　馬乗園健一

よろしく

新任紹介

赤崎小学校　山田公道

菊地から来ました。よろしくお願いいたします。

初め、岬を巡って赤崎の入江を臨んだ時、その眺望に目を奪われました。海はあくまでも青く、足下に潮騒を聞くのは何とも言えません。

津奈木には、徳富家の墓所があり、蘇峰・蘆花ともゆかりが深いと聞きましたが、蘆花の妻愛子は菊地市隈府の出身です。若き日に胸躍らせて読んだ蘆花の「思い出の記」も書き出しは、隈府がモデルになっております。隈府(ワイフ＝妻)→妻籠の里、といった図式です。何か縁の糸に結ばれているような気がします。

この町に来て、先ず気付くのは地域の人々の都会ずれしない純朴さです。これは豊かな自然環境のせいかもしれません。また、子供たちの礼儀正しさにもびっくりしました。かてて加えて、町当局の教育に対する並々ならぬ熱意に打たれました。

こういうすばらしい土地へ来た以上、純真無垢な子供たちが心身ともに健やかに成長するよう、全職員一致協力してがんばりたいと思います。よろしくお願いします。

津奈木小学校

前列右から
上門　裕子先生　三年二組
森　道子先生　栄養士
石塚徳次郎先生　教頭
鶴田　和子先生　一年一組
宮崎　勇　先生　校長
高橋　泰子先生　四年一組
泉　清治先生　六年二組
二列目右から
粟塚　岩雄先生　理科
桃原　良三先生　特殊
山本　澄代先生　一年二組
本村　真也先生　四年二組
三列目右から
村上　昭子さん　庁務
右田　恒美先生　三年一組
田河　慶子先生　二年二組
四列目右から
山本　哲郎先生　六年一組
山田　義博先生　六年一組
本田　浦子先生　五年二組
山内　美昭先生　五年一組
千田　慎子先生　事務
大渕　雅子先生　養護

町内各小・中学校

わたしたちの先生

赤崎小学校

前列右から
東　栄助先生　四年
山田　格　先生　三年
山田　公道先生　校長
野口　久生先生　教頭
寒川　正典先生　六年
後列右から
林田　智子さん　庁務
深川　祥子先生　五年
松崎真佐代先生　二年
宮本　修子先生　一年
松原　千鶴先生　養護

平国小学校

前列右から
木村　浩美先生　二年
宮本　英也先生　教頭
徳永　敬二先生　校長
池田　郁雄先生　五年
後列右から
吉海　廣　先生　六年
津川　秀子先生　養護
野崎由美子さん　庁務
倉岡佳代子先生　三年
田口　淳子先生　一年
中村　洋介先生　四年

津奈木中学校

前列右から
長谷川徹郎先生　事務
柳迫マサ子さん　庁務
濱田　洋一先生　教務主任
宮田　久雄先生　教頭
中元　敏行先生　校長
向松　時良先生　進路指導主事
佐々木興四郎先生三年学年主任
中村　末男先生　三年一組
濱田　浩代先生　三年副担
前田　保隆先生　三年二組
和田　博之先生　三年三組
井上

後列右から
中村　秀子先生　養護
村田　晃治先生　二年三組
西　宏子先生　二年二組
坂本　郁博先生　二年一組
加藤　昇　先生　二年学年主任
野田　浩次先生　一年学年主任
犬童久美子先生　一年一組
日高扶由美先生　一年二組
大崎満洲美先生　一年三組
松本　宗久先生　特殊